



平成23年5月26日

<最古の猫形の操り人形、鹿田遺跡で発見>

岡山大学鹿田キャンパスに位置する鹿田遺跡において、11世紀中頃（平安時代後半）の猫形木製品が発見されました。岡山大学埋蔵文化財調査研究センターによる発掘調査。本資料は、芸能民である傀儡（くぐつ）が使用した操り人形と考えられます。動物形の操り人形としては、最古段階に位置づけられるものです。本資料は、芸能史において特筆される発見といえ、鹿田荘（しかたのしょう）の地域史的な性格を考える上でも注目される資料といえます。

<内容>

- ・岡山大学鹿田キャンパスに所在する鹿田遺跡において、11世紀中頃（平安時代後半）の猫形木製品が発見されました。
- ・今回の発見は、芸能史において特筆すべきものであるとともに、本資料が発見された鹿田荘（しかたのしょう）の地域史的な性格を考える上でも注目すべきものといえます。
- ・猫形木製品は、古代・中世の芸能民である傀儡（くぐつ）が使用した操り人形の可能性が高いものと考えられます。
- ・本資料は全国2例目の猫形木製品です。類例としては、鎌倉市円覚寺門前遺跡出土の「山猫形木製品」（14世紀後半）が存在します。
- ・動物形の操り人形は、これまで14世紀前半の鹿田遺跡出土の猿形木製品が最古の例とされてきました。本資料はそれを約300年遡る事例です。
- ・本資料は井戸から出土したもので、年代を細かく推定しうる点でも貴重な発見といえます。従来の動物形人形は、溝などの時期幅のある遺構から出土したもので、細かな年代を推定することが難しいものでした。
- ・本資料は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが2007年度に発掘調査を実施した鹿田遺跡第18次調査（中央診療棟新営：防火水槽地点）において出土したもので、報告書作成過程において当該製品の性格が究明されました。

<お問い合わせ>

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター・山本 悦世

（電話番号）086-251-7290

（FAX番号）086-251-7290